

福 崎 町

第 4 次 総 合 計 画

(後期基本計画)

活力にあふれ

風格のある

住みよいまち

兵庫県福崎町

福崎町

第4次総合計画 (後期基本計画)

活力にあふれ 風格のある 住みよいまち

兵庫県福崎町

ごあいさつ



福崎町第4次総合計画を策定してはや5年が経過しました。この間に実現したものや、これから進めなければならないものがあり、状況の変化によって計画を変更しなければならない事態も生まれています。

私達は、この変化に対応するため、計画実行の中心的役割を果たしてきた役場職員が中心になってワーキンググループを編成し、一年間検討を加えてきました。更に、高い立場から判断をしていただくため総合計画審議会を設置して多面的な意見をいただいて後期基本計画を練り上げました。

この計画は町民の参加と協働によって作られたものでありますから、この実践も参画と協働の力で進められなければなりません。

さて、この5年間では市町村の合併という大きな変化がありました。さらに三位一体の改革による地方交付税の削減などにより、地方財政の運営はますます厳しさを増してきました。どんな変化があったとしても、町政の役割は町民のいのち、暮らし、人権を守ることです。

福崎町第4次総合計画後期基本計画が「活力にあふれ 風格のある 住みよいまち」づくりに大きく貢献することを願っています。

平成21年3月

福崎町長 嶋田正義

序論

第1章 総合計画の概要	2
1 計画策定の趣旨	2
2 総合計画の構成と計画期間	3
第2章 福崎町の現況	4
1 立地・自然条件	4
2 社会条件	6
(1) 沿革	
(2) 人口・世帯	
(3) 産業	
(4) 土地利用	
(5) 道路・交通	
(6) 文化	
第3章 社会的な動向及び広域的な位置づけ	12
1 新しい社会的な動向	12
(1) 社会の成熟化と新しいしくみづくり	
(2) 少子・超高齢社会への移行	
(3) 環境と共生する生活様式の確立	
(4) ひとの移動と情報の収集・発信がしやすい時代	
2 広域的な位置づけ	14
(1) 国土形成計画	
(2) 21世紀兵庫長期ビジョン	
(3) 播磨地方拠点都市地域基本計画	
第4章 福崎町のまちづくり課題	16
(1) 立地条件、多様な資源の活用による“福崎らしさ”の明確化	
(2) 住民参加によるまちづくりの推進	
(3) 時代に対応した行政課題への取り組みの推進	
(4) まちの活力を支える産業の振興	

基本構想

第1章	まちの将来目標	20
1-1	基本理念と将来像	20
	(1) 基本理念	
	(2) 将来像	
1-2	将来人口	22
1-3	土地利用等	24
	(1) 住宅ゾーン	
	(2) 田園居住ゾーン	
	(3) 農業振興ゾーン	
	(4) 森林保全ゾーン	
	(5) 商業ゾーン	
	(6) 工業ゾーン	
	(7) 文化ゾーン	
	(8) 学園ゾーン	
	(9) レクリエーションゾーン	
	(10) まちの構造	
第2章	まちづくりの基本方向	32
2-1	参画と協働でつくるまちづくり	33
2-2	よく学び人と文化をはぐくむまちづくり	34
2-3	健康で安心してらせるまちづくり	35
2-4	快適でうるおいのあるまちづくり	36
2-5	自然にやさしい安全なまちづくり	37
2-6	活力にあふれのびゆくまちづくり	38
第3章	まちづくりの重点施策	40

第1章	参画と協働でつくるまちづくり	45
第1節	住民参加のまちづくりの推進	46
1.	コミュニティ	46
2.	参画と協働	49
第2節	計画的な行政運営の推進	52
1.	情報化	52
2.	国際化	54
3.	行財政	57
4.	広域行政	60
第2章	よく学び人と文化をはぐくむまちづくり	63
第1節	学習と教育の充実	64
1.	生涯学習	64
2.	人権教育	67
3.	学校教育	69
4.	人材教育と青少年育成	73
第2節	文化・スポーツの育成	76
1.	芸術・文化、文化財	76
2.	スポーツ・レクリエーション	80
第3章	健康で安心してくらせるまちづくり	85
第1節	健康づくりの推進	86
1.	保健・医療	86
第2節	福祉の充実	90
1.	高齢者福祉	90
2.	障害者福祉	94
3.	低所得者福祉	97
4.	児童福祉	99
第4章	快適でうるおいのあるまちづくり	103
第1節	まちの基盤整備	104
1.	道路・交通	104
2.	下水道	109
3.	公園・緑地	113
4.	治山・治水	115
第2節	市街地の整備	117
1.	市街地整備	117
2.	街並みづくり	121

第5章 自然にやさしい安全なまちづくり	125
第1節 生活環境の充実	126
1. 住宅	126
2. 環境保全	129
3. ごみ・し尿処理	132
4. 上水道	135
第2節 安全の確保	138
1. 消防・防災	138
2. 交通安全	141
3. 防犯	143
4. 消費者対策	145
第6章 活力にあふれのびゆくまちづくり	149
第1節 農林業の振興	150
1. 農林業	150
第2節 商工業・観光の振興	155
1. 商業	155
2. 工業	158
3. 観光	160
第7章 計画実現の方策	165
資 料	169



町花 サルビア

シソ科の一年草で日本には明治の中ごろにはいつてきました。燃えあがるような鮮やかな色調が多くの人に好まれています。学名の“サルビア”は「安全」を、“スプレデンス”は「光輝」を意味し、町の躍進を象徴します。



町木 クロガネモチ

モチノ木科の常緑高木で高さは10mぐらいいになり、庭木や盆栽として好んで使われています。昔から縁起のよい木といわれ、強い生命力をもっています。福崎町には大木が多く、また火災や公害にも強いので「力強い発展」を象徴して町の木に選びました。

〈福崎町の未来図〉



福崎小学校6年

おおのひろと
大野寛人

序論

第1章

総合計画の概要

1

計画策定の趣旨

福崎町における行政の総合的かつ計画的な運営を図るため、昭和45年に「福崎町振興計画」を策定したのに続いて、「福崎町新総合計画（サルビアプラン）」、「福崎町第3次総合計画（サルビアプラン ひと・ゆめ・まち ー明日への飛躍、住んでいるまちから住みたいまちへー）」を策定しました。そして、平成16年3月に「福崎町第4次総合計画（サルビアプラン）」を策定し、将来像に掲げた「活力にあふれ 風格のある 住みよいまち」をめざしたまちづくりを進めてきたところです。

「福崎町第4次総合計画（サルビアプラン）」は、平成16年度から平成25年度までの基本構想と平成16年度から平成20年度までの5年間を前期基本計画の期間とし施策の展開を図ってきました。この間、図書館の開館をはじめ、公共下水道の供用開始、八千種小学校体育館の改築、福崎町で最初の幼保一体化施設である福崎幼稚園の開園などに取り組んできました。前期基本計画は平成20年度が終期となっており、また、この間に本町を取り巻く環境は大きく変化し、施策の見直し・再検討が必要となってきました。

このため、今後においても総合的・計画的な行財政運営が推進できるよう、基本構想の一部見直しを行い、まちづくりの指針となる新たな5か年計画として後期基本計画（平成21年度から平成25年度）を策定しました。

2

総合計画の構成と計画期間

本総合計画は、基本構想、基本計画により構成されています。

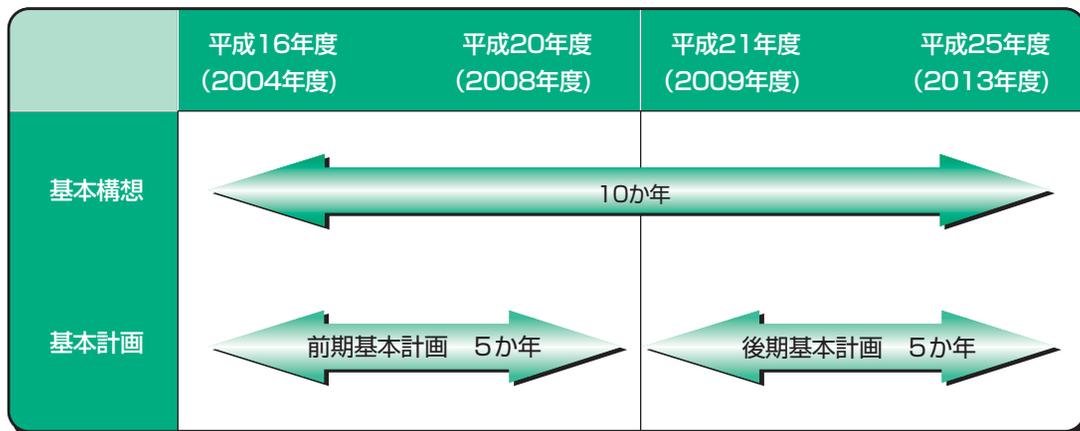
(1) 基本構想

基本構想は、21世紀にめざすべき本町のまちづくりの目標や将来像と、これを実現していく方策についての基本的な考え方を示したもので、基本計画の基本となるものです。

基本構想は、平成16年度（2004年度）を初年度とし、平成25年度（2013年度）を目標とする10か年構想です。

(2) 基本計画

基本計画は、基本構想を具体化するための施策の内容を展開したものであり、基本構想の計画期間を5年毎に前期と後期に区分し、後期基本計画は平成21年度（2009年度）を初年度とし、平成25年度（2013年度）を目標とする5か年計画です。



第2章

福崎町の現況

1

立地・自然条件

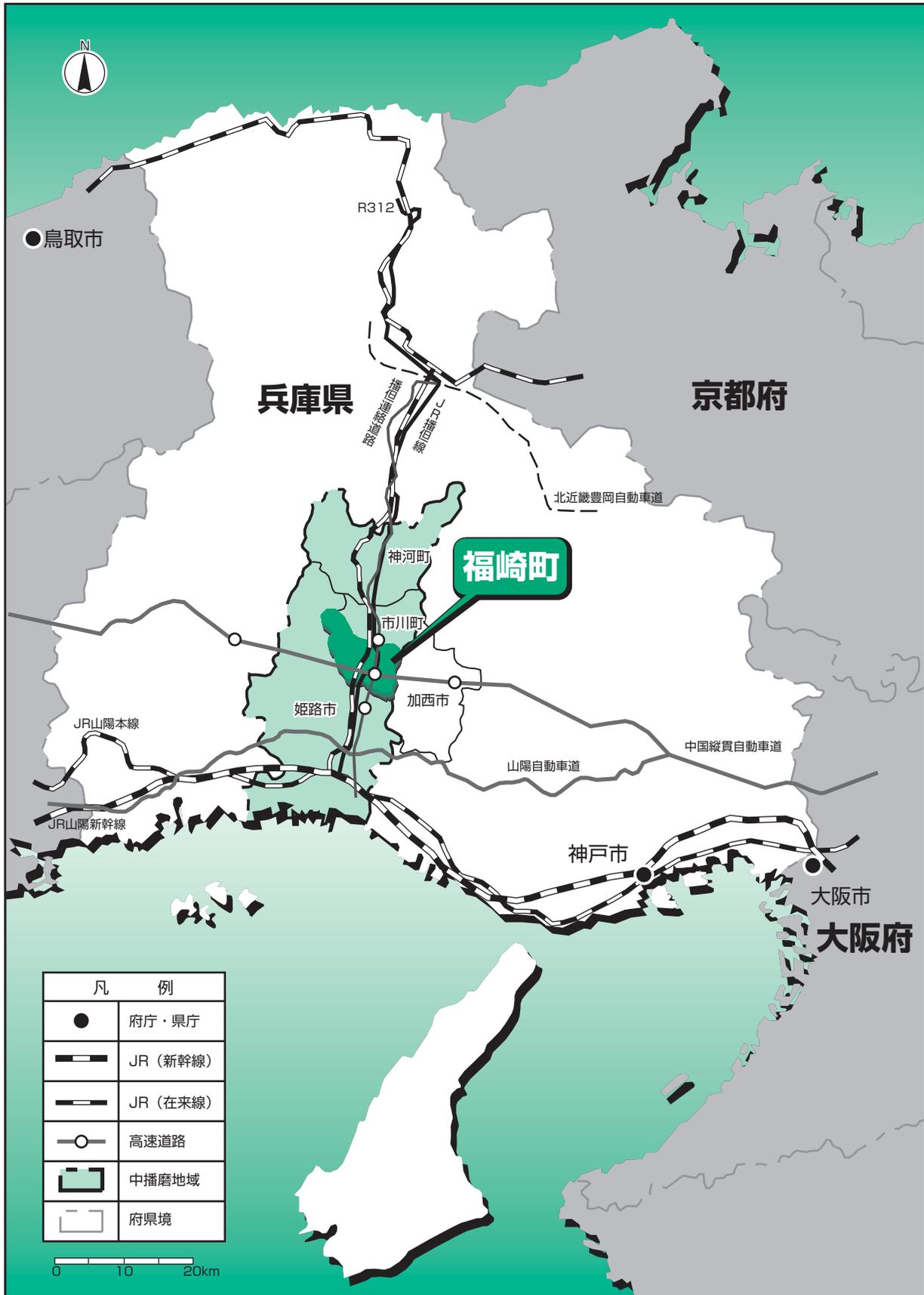
福崎町は、兵庫県の中央部よりやや南側に位置し、播磨平野の北西部の一角を占めています。周辺の多くを緑の山に囲まれ、東は加西市、西及び南は姫路市、北は市川町にそれぞれ隣接し、姫路市の中心より約17kmの距離にあります。町域は、東西10.1km、南北11.5kmで、総面積は45.82km²となっています。

また、中国縦貫自動車道と播但連絡道路が町のやや南側の中央部で交差し、「福崎インターチェンジ」をもつ広域的な交通の要衝地でもあります。

気候は、概ね瀬戸内海型に属し穏やかですが、内陸型気候の影響も受けており、沿岸地域と比較して寒暖の差が大きくなっています。地形は、町の中央部を市川がほぼ南北に貫流し、西及び北西、東側は山地となっており、平野部は南方面に開けています。



位置図



2

社 会 条 件

(1) 沿 革

歴史書によれば、概ね一万年前に当地に人が住みついていたことが記されています。その後、半農半商の町として発展してきました。明治時期には、神東・神西郡役所が設置され、郡の政治的機能を担っていました。そして昭和31年に、古くから人情、風俗、習慣を同じくし、地勢、交通などにおいて密接な関係にあった福崎町、田原村、八千種村の1町2村が合併し、現在の福崎町となりました。

近年は、姫路市の発展によりベッドタウン的な性格を有するようになり、また、昭和46年に福崎工業団地（第1次）が完成してからは工業のまち、デイサービスセンターの整備充実などにより福祉のまち、さらに平成12年には4年制大学の近畿福祉大学（現：近畿医療福祉大学）が開学し、学園のまちとしても発展が期待されています。

(2) 人口・世帯

平成17年の国勢調査による本町の総人口は20,669人となっており、昭和55年以降の5年間増加率は、昭和55年～60年が3.9%、昭和60年～平成2年が6.0%と増加傾向が続いていましたが、短期大学の募集停止（平成10年）の影響などにより平成7年、12年と減少に転じました。その後、近畿福祉大学（現：近畿医療福祉大学）が開学し、平成12年～平成17年は5.6%増加しています。

世帯数は、一貫して増加傾向にあり、平成17年は6,359世帯で、一世帯当たり人員は3.3人となっています。また、年齢3区分の人口構成は、0～14歳の幼年人口が2,865人（13.8%）、15～64歳の生産年齢人口が13,594人（65.8%）、65歳以上の老年人口が4,210人（20.4%）で、幼年人口は減少、生産年齢人口と老年人口は増加しており少子高齢傾向を示しています。

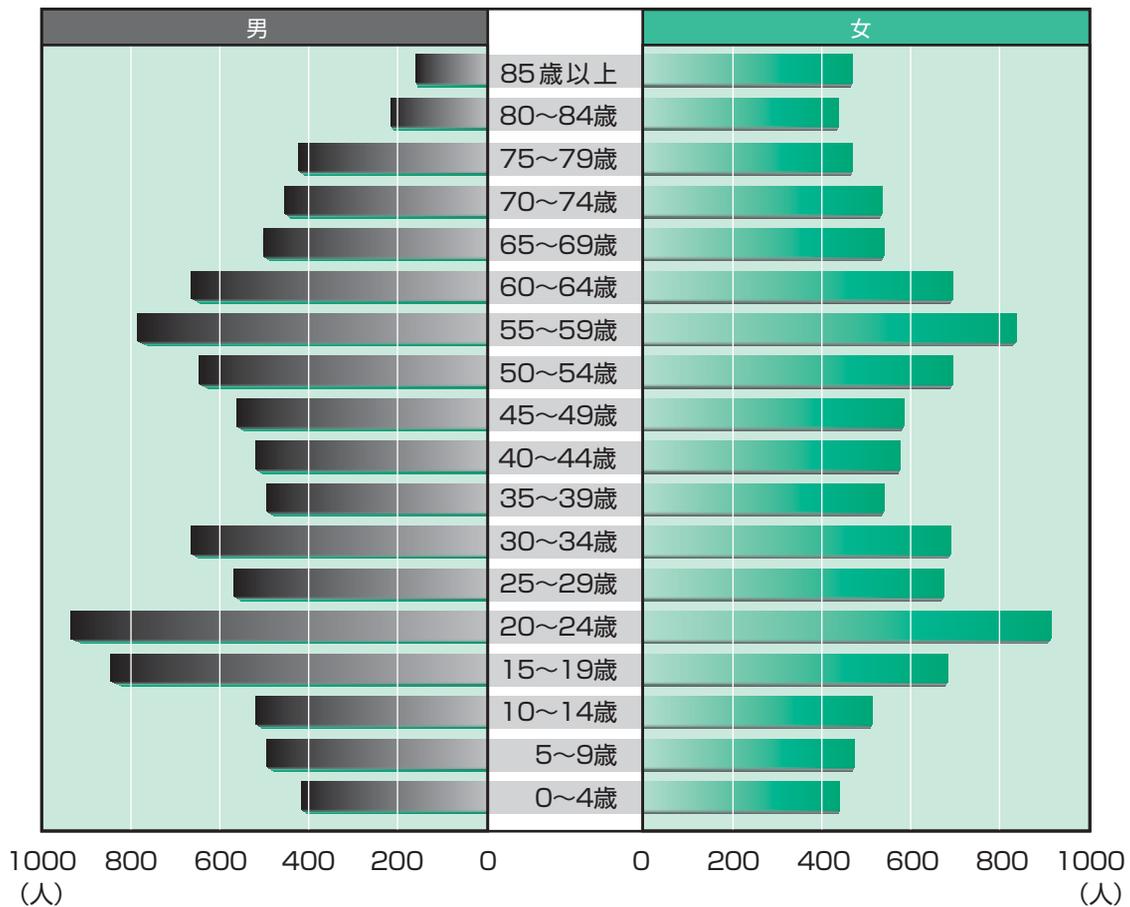
■人口・世帯の推移

(単位：人、世帯、() 内%)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総人口	18,787 (100)	19,913 (100)	19,854 (100)	19,582 (100)	20,669 (100)
14歳以下	4,241 (22.6)	3,666 (18.4)	3,287 (16.6)	3,041 (15.5)	2,865 (13.8)
15～64歳	11,959 (63.6)	13,227 (66.4)	13,090 (65.9)	12,706 (64.9)	13,594 (65.8)
65歳以上	2,587 (13.8)	3,020 (15.2)	3,477 (17.5)	3,835 (19.6)	4,210 (20.4)
世帯数	4,775	4,997	5,328	5,697	6,359
1世帯あたりの人員	3.9	4.0	3.7	3.4	3.3

資料：国勢調査

■5歳階級別・男女人口構成（平成17年）



男	総人口	女
9,903人	20,669人	10,766人

(3) 産 業

平成17年の国勢調査による総就業者数は9,763人で、総人口の47.2%を占めています。また、昭和50年以降、総就業者数は増加傾向を示していましたが、平成7年から平成12年にかけては一旦減少し、その後平成12年から平成17年にかけては再び増加しています。

産業別では、第1次産業は減少が続いていましたが、回復傾向が見られ、第2次産業は平成2年をピークに減少、第3次産業は増加傾向にあります。

■産業別就業人口の推移

(単位：人、()内%)

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総 就 業 者 数	8,758	8,946	9,402	9,214	9,763
第 1 次 産 業	689 (7.9)	547 (6.1)	506 (5.4)	331 (3.6)	452 (4.6)
第 2 次 産 業	3,524 (40.2)	3,778 (42.2)	3,725 (39.6)	3,619 (39.3)	3,590 (36.8)
第 3 次 産 業	4,521 (51.6)	4,617 (51.6)	5,159 (54.9)	5,224 (56.7)	5,655 (57.9)
総 人 口	18,787	19,913	19,854	19,582	20,669
就 業 率 (%)	46.6	44.9	47.4	47.1	47.2

※分類不能人数は除く。 資料：国勢調査

1) 農林業

本町の農業は米生産が主体で、その他に特産品として、もち麦などがありますが、まだ生産量は少なく、典型的な米作型農業と言えます。農家の種別では、第2種兼業が大半を占めています。もちむぎのやかたや農産物の直売機能をもったファーマーズマーケット（旬彩蔵）により、つくるから販売までの展開を進めています。

森林は^{*}水源かん養やレクリエーションなど、多くの公益的機能を果たしていることから、主として、その保全に努めています。

2) 商 業

商業については、車社会化の進展と広域道路交通の要衝であることにより、福崎インターチェンジ周辺をはじめ幹線道路沿道に大型店舗や沿道サービス機能の集積があります。

^{*}水源かん養…森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を平準化して洪水を緩和するとともに、川の流量を安定させること。また、雨水が森林土壌を通過することにより、水質が浄化されます。

従業者数と商店数（308店、平成19年現在）は減少傾向を示していますが、年間販売額はほぼ横ばいとなっています。

3) 工業

福崎工業団地が稼働した昭和46年以降、多くの優良企業が進出していますが、従業者数は平成3年、事業所数は昭和60年をピークに減少傾向ですが、製造品出荷額は平成19年が最高となっています。製造品では、化学工業が最も多く、次いで一般機械、プラスチック製品の順です。

今後も、優良企業の誘致を図り、現在立地している企業をはじめ地元企業、近畿医療福祉大学や中小企業大学校関西校などと連携を深め、ともに発展することが期待されます。

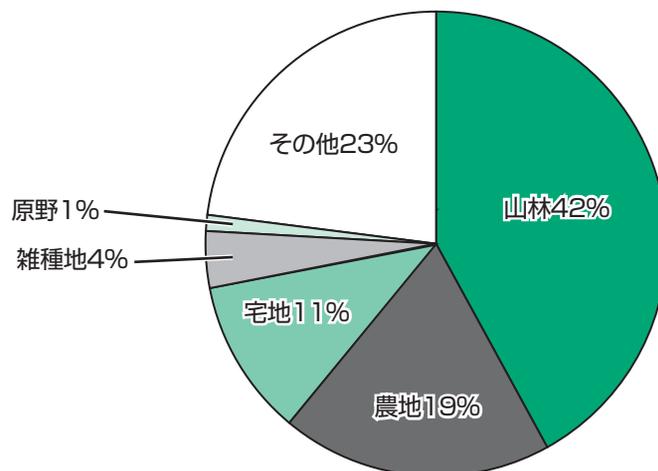
(4) 土地利用

町の北部と東部を中心に広がる山林は1,933ha（42.2%）を占め、市川沿い及び東部に広がる農地は856ha（18.7%）で、宅地は、490ha（10.7%）となっています。

都市計画区域は、中播都市計画区域の北端に位置し、町土の82.6%である3,787haに指定されています。その内、市街化区域は都市計画区域の11.2%である425ha（住宅系198ha、商業系10ha、工業系217ha）で、残りの3,362ha（88.8%）は、市街化調整区域となっています。

市街地は、町中央部のJR福崎駅周辺及び市川東側に広がり、福崎インターチェンジ周辺及び県道三木穴粟線沿いに新しい市街地が形成されています。

■土地利用現況



(5) 道路・交通

1) 道路

本町の都市計画道路は7路線となっており、昭和51年と56年に都市計画決定されていますが、計画の総延長15,690mに対し、整備済区間（暫定整備済を含む）の合計は8,502m（54.2%、平成20年3月現在）の状況にあります。また、JR福崎駅の周辺整備事業の関連として、道路の整備を進めています。

町のやや南部を、東西方向に横切る中国縦貫自動車道は、南北方向の播但連絡道路と福崎インターチェンジにより結ばれています。特に、播但連絡道路が平成12年に和田山インターチェンジまで全通し、日本海方面への玄関としての性格が強まっています。

国道312号は、播但連絡道路の西側を南北に走っており、町の北部から市川町にかけては交通安全施設整備が進んでいます。また、県道の内、中国縦貫自動車道の北側をほぼ平行して東西に横切っている三木穴栗線は、東部で交通安全施設整備が進んでいるものの通過交通量が増大してきており、市街地内ではインターチェンジや大型店舗・沿道サービス店舗の利用者とあいまって特に休日には混雑しています。

2) 交通

本町の公共交通機関には、鉄道と路線バスがあります。鉄道は、JR播但線が、市川の西側を南北に走っており、平成10年には姫路寺前間が電化され、姫路都市圏近郊都市としての性格が強まっています。JR福崎駅の乗車人員は、平成19年一年間で82万5,000人（日平均2,260人）、内定期が63万3,000人（日平均1,734人）です。電化による利便性の向上や近畿福祉大学（現：近畿医療福祉大学）の開学により、平成10年からは概ね増加傾向となっています。

バス路線は、神姫バス及びJRバスが姫路、粟賀、北条、大阪、岡山と本町を結んでいますが、既成市街地内では道路幅員が狭いため、運行本数が制約されています。

しかしながら、JR福崎駅と福崎インターチェンジによる鉄道と自動車・高速バスの2種類の交通手段により、南北方向と東西方向の人的交流・物流などにおける広域的な交流拠点として、本町は重要な役割を担っています。

(6) 文化

本町は、文化勲章を受章された民俗学の柳田國男と船舶工学の吉識雅夫をはじめとして、日本画家の松岡映丘、万葉学者の井上通泰、言語学者の松岡静雄など、多くの文化人を輩出しています。

そして、先人の作品や資料などは、隣接している「柳田國男生家」や「柳田國男・松岡家顕彰会記念館」「神崎郡歴史民俗資料館」に保管・展示されており、これらの建物群は、銀の馬車道のおおる辻川界限、国の指定文化財である「木造薬師如来坐像」を有する「神積寺」などとともに歴史・伝統・文化を中心とした市川東側の文化ゾーンを形成しています。

一方、市川西側には、研修、芸術、スポーツ、学術、教育・研究などを提供する図書館、文化センター、エルデホール、スポーツ公園、近畿医療福祉大学や中小企業大学校関西校などを核とした新たな文化圏が育ちつつあります。

また、本町の生涯学習の取り組みである「^{しょうがいがくしゅう}※福崎町生涯楽集データバンク（まちの先生）」、「※福崎まちづくり出前講座」などと合わせて、町に息づいている新旧両文化の融合を図ることにより、文化の育成、向上・発展、創造がより一層進むことが期待されます。



※福崎町生涯楽集(しょうがいがくしゅう)データバンク（まちの先生）

…町内に在住・在勤の「まちの先生登録者」の中から指導者を選んでいただき、自主学習を指導していただく講師派遣事業。

※福崎まちづくり出前講座…住民の皆さんが知りたいこと、聞きたいことをメニューから選び町職員が皆さんのところに出向いて説明する事業。

第3章

社会的な動向及び広域的な位置づけ

1

新しい社会的な動向

今後の本町のまちづくりを進めるために、関連する社会的な動向を整理します。

(1) 社会の成熟化と新しいしくみづくり

ものの豊かさよりこころの豊かさを重視する人々が増え、人生80年の生活様式の現実化ともあわせて、生きがいや働き方、社会的な役割分担のあり方など価値観の多様化が進んでいます。

また、高齢者介護などに取り組むネットワーク型のコミュニティや[※]ボランティア活動への参加を通じて、柔軟で新しい人間関係づくりの志向がみられます。

住民と行政の関係については、公共的分野における協働のしくみづくりなど、新しい時代に対応した社会システムが求められています。

本町では、自然や歴史文化などのまちの資源や住民の生きがいなどを重視し、行政と力を合わせ地域の状況にあった住民参加の取り組みを進めていくことが大切です。

(2) 少子・超高齢社会への移行

近年、速い速度で人口構造の少子化、高齢化が進み、わが国の総人口は減少局面に入ることが予測されています。その中で、子供を生み、育てやすい環境づくりが求められています。また、年齢や人生の各段階に対応した生きがい、働き方の選択など、多様な暮らし方の選択要求とそれができる可能性も高まってきています。健康で長寿を全うできることが何にも優るという欲求をとらえ、活力のある健康長寿社会づくりに向けた総合的な対応が求められています。

本町では、子どもから学生、従業者、高齢者などの各世代の住民すべての健康・福祉の充実や生きがい対策などを進めることが大切です。

(3) 環境と共生する生活様式の確立

自然の摂理と調和の中で展開される農林業などの自然活用型産業は、安全で健康づくりの基となる食糧供給、町土の保全などの公益的機能、安らぎや癒しの機能などが見直され、重要性が再認識されてきています。

[※]ボランティア…公共福祉のために自主的に無報酬で活動する人。

また、地球環境問題にも考慮した環境負荷の少ない製品・サービスの開発、リサイクル・環境保全技術の開発、環境負荷の少ないグリーンエネルギーの開発・導入なども行われています。

本町においても、人の営みと自然の関係を重視し、環境調和型の生活様式の確立や企業活動を展開していくことが重要となってきています。

(4) ひとの移動と情報の収集・発信がしやすい時代

道路や鉄道、情報通信技術などの交通・情報基盤の整備にともなう日常生活圏の拡大などを背景に、行政境界や従来の地域間の結びつきを超えた広域的な、また、高齢者介護や環境保全などのテーマ的な交流が形成されつつあり、一人ひとりが適切に情報を得て行動することが求められています。

本町では、広域的な交通や通信基盤の整備状況による立地条件などの良さを生かしていくことが求められています。

以上、人と地域社会の絆の深さや従来から培ってきた地域資源を尊重し、普遍的なもの、また変化すべきものを見極め、さらに、新しい価値観への転換、新しい文化と生活様式の創造が求められており、それらをいかに次世代に伝えていくかが問われている時代です。

2

広域的な位置づけ

関連計画などでの本町の広域的な位置づけを整理します。

(1) 国土形成計画

国土総合開発法の抜本的な改正により、量的拡大を図る「開発」を基調としたこれまでの国土計画から、国土の利用、整備、保全を推進する総合的な国土計画へと改編されました。国全体の基本的な計画である「全国計画」は平成20年7月に決定されていますが、ブロック単位の地方ごとに定める「広域地方計画」は策定段階です。

(2) 21世紀兵庫長期ビジョン

1) 全県ビジョン（平成13年2月兵庫県）

基本理念は、「自律・共生」「安全・安心」で、社会像としては、①創造的市民社会、②環境優先社会、③しごと活性社会、④多彩な交流社会をっかけ、将来像は「美しい兵庫21ー多様な地域に多様な文化と暮らしを築く」としています。実現の基本姿勢は県民の「参画と協働」で、成熟時代の「民自律・分権社会」を先導し、21世紀初頭の兵庫づくりに取り組む基本的な方向を示しています。

県土の活用を進める展開方向では、本町は多自然居住地域に位置しています。

2) 中播磨地域ビジョン（平成13年2月地域夢21委員会）、同推進プログラム（平成18年3月中播磨地域ビジョン委員会・中播磨県民局）

地域ビジョンの基本姿勢は「一人ひとりの自己実現を大切に地域とともに生きる」で、6つの夢として、①自己実現社会、②人の輪社会、③安心安全社会、④環境王国、⑤日本の祭都、⑥世界の光都を設定しています。

(3) 播磨地方拠点都市地域基本計画（平成6年2月播磨地方拠点都市推進協議会）

拠点都市地域の将来像は、「未来を拓き世界へ飛翔する・播磨」で、目標は、①魅力ある定住・交流都市圏、②活力ある産業・業務都市圏、③自然と共生する快適環境都市圏としています。その中で、本町の位置づけは、自然レクリエーション・交流エリアです。

第3章 社会的な動向及び広域的な位置づけ



第4章

福崎町のまちづくり課題

本町のまちづくりの基本的な課題は以下のとおりです。

(1) 立地条件、多様な資源の活用による“福崎らしさ”の明確化

鉄道駅とインターチェンジが立地し広域交通条件が良く、また、近畿医療福祉大学や中小企業大学校関西校の高等教育及び研究機関などの施設も立地しています。その中で、町の中心部を南北に流れる市川をはじめとした水と緑の豊かな自然や、由緒ある神社仏閣の歴史史跡などに恵まれ、さらに旧街道の交差点であった辻川界隈があり、柳田國男や吉識雅夫などのゆかりの地でもあります。

以上の立地条件の良さや多様な資源をまちづくりに活用し、広域的な視点で本町の位置づけや役割への対応とともに均衡あるまちづくりにより、“福崎らしさ”を出していくことが大切です。

(2) 住民参加によるまちづくりの推進

住民参加の機会や行政情報の提供の一環として、「福崎町生涯集しょうがいかくしゅうデータバンク（まちの先生）」や「福崎まちづくり出前講座」の開設、さらに本総合計画策定のための公募による「まちづくり委員会」の設置などに取り組んできました。これらを地域コミュニティの育成と融合させながら継続かつ発展させ、行政や各種団体などと役割分担しながら力を合わせて、住民参加のまちづくりに取り組んでいくことが大切です。

(3) 時代に対応した行政課題への取り組みの推進

少子・高齢化にともなう人口減少、景気の低迷、自然環境の重視志向など、本町を取り巻く状況の中で、それらを考慮した定住人口の設定や住みやすく訪れてまちの特色や資源などがわかりやすいまちづくりが大切です。具体的には、くらしの基盤である道路や下水道、まちの玄関であるJR福崎駅周辺の整備、自然環境の保全、住宅の供給、歴史や文化を生かした人づくり、健康・福祉の充実などの住民生活に関連の深い行政課題への取り組みを進めることが必要です。

(4) まちの活力を支える産業の振興

地形や気候の自然条件をはじめインターチェンジや姫路都市圏近接の立地条件などを生かし、町内には農地や農産物の加工・販売までの施設、優良企業、大型店舗や沿道サービス型店舗が立地しています。今後とも雇用の場の確保を含めたまちの活力を生み出すために、第1次、2次、3次にわたる各産業の振興とそのための支援が大切です。



もちむぎの調理実習



おはなし会